

競技での紛議を 避けるために必要なこと。

競技を開催したとき、規則上の紛議が発生することはよくあることです。

プレーヤーが規則の適用を誤ったり、事実関係が曖昧であったことが紛議の原因となることも多いですが、特に倶楽部競技レベルで発生する紛議は委員会が規則に基づいた運営を出来ていなかったことによるものが多く見受けられます。そしてどのような方法が正しい競技運営方法なのか、模索している委員会が多いのも事実です。

ゴルフ規則のオフィシャルガイドではプレーの規則だけでなく、競技の運営方法に関するガイダンスが掲載されています。ツアー競技、JGA競技などを含め世界中のあらゆる競技はこのガイダンスに基づいて運営をされており、倶楽部競技においても大いに役立つ内容となっています。紛議を避けるための正しい運営をするために必要な事項は何か、オフィシャルガイドに掲載されている内容に基づいて簡単にご紹介いたします。



1 競技の条件を定めよう

競技の前に準備しておくことで最も重要なのは競技の条件を定めることです。競技をどのように開催するのかを明確に規定しておくべき競技の条件に不備があり、その結果紛議が起きてしまうケースがあります。

競技の条件とは参加資格、エントリー方法、競技日程、競技形式、タイの決定などの競技を開催する仕組みを規定するものでその作成義務は委員会にあります。そして競技の条件はすべての競技者に競技前に明確な方法で告知しておく必要があります(オフィシャルガイド5A)。

参加資格では性別、年齢に制限があるのか、アマチュア資格が必要なのか、倶楽部メンバーでなければならないのか、そしてハンディキャップの制限、ときには居住地などを制限する場合があります。倶楽部競技では、アマチュア資格について明記されていないことによって紛議が生じた例があります。倶楽部選手権ではアマチュア資格が必要でも、月例競技では倶楽部メンバーであることだけを資格としている倶楽部もあります。

プレー形式も明確にしておく必要があります。ストロークプレーなのか、マッチプレーなのか、ハンディキャップ付きなのか、そして何ラウンドで競うのか、悪天候が原因で予定していたラウンドを終わらせることができない場合、予備日があるのか、あるいは最低何ラウンドを消化していたら競技が成立するのかを明確にしておく必要があります。荒天によって当初予定したラウンド数、あるいはホール数を消化できなかったことにより、競技はいつ成立するのか、成績はどうなるのか、という紛議が起きてしまう例が多いです。

スコアカードを提出した時点はいつなのか、例えばボックスに投函したときなのか、エリアから出たときなのか、プレーヤーが明確に分かるように定めておきます。エリアを設置する場合、そのエリア(区域)を線やテープで明確にしておくことも必要です。



タイの決定方法が曖昧で紛議となることも少なくありません。1位がタイの場合、プレーオフで決定するのか、その場合、どのホールを使用するのか、あるいはスコアを比較する場合のカウントバックの方法の詳細も規定しておかなければなりません。カウントバックをしてもタイの場合はどうするのか、ということについても同様です。

最近では急激な天気の変化によって競技を中断しなければならないケースが多くなってきています。中断をする場合の判断基準は何かを委員会は知っておくべきでしょう。雷、視界、水、風などの個々のケースでの判断基準がオフィシャルガイド6Eに規定されています。中断に関連して再開の判断、またはラウンドを取り消す場合の判断、そしてそれらに関わる規則についても委員会はプレーヤー以上に理解しておく必要があります。

競技運営者、レフェリー必携です。

2019年 ゴルフ規則のオフィシャルガイド



「ゴルフ規則の解釈」、「委員会の措置」、「障がいを持つプレーヤーのためのゴルフ規則の修正」の三節から構成され、すべてのレベルでゴルフの運営に従事する人たちの参考となる一冊です。

価格: **4,000円** (税別)
サイズ: A5判 (148mm×210mm)

24条の規則と、その規則についての解釈が掲載されています。

| ローカルルールひび型 | 定義 | 定義 |
|---|---|--|
| <p>ローカルルールひび型E-5 1:見つかっていない球</p> <p>プレーヤーの球が見つかっていない場合、そのプレーヤーはドロップゾーンを定め、そのプレーヤーはドロップゾーンに球をドロップし、そのドロップゾーンからプレーヤーはプレーを再開する。</p> <p>定義</p> <p>● 球の基点 ● フェアウェイの基点 ● 救済エリア</p> <p>救済エリアのサイズ 次の数のすべての場合: ● コールから球の基点(A)に到達する距離(加えて、その距離からプレーヤーがプレーする距離) ● コールからフェアウェイの基点(B)までの距離(加えて、その距離からそのフェアウェイプレーヤーがプレーする距離)</p> <p>プレーヤーの選択: 救済エリアは、プレーヤーが球をドロップする可能性があるため、球がドロップゾーンに落ちた後、プレーヤーはドロップゾーンに球をドロップし、そのドロップゾーンからプレーヤーはプレーを再開する。</p> | <p>ルールインベディメント/1 - 果実(フルーツ)のステータス 水やジュースから分離した果実は、たとえその果実がコース上には見つかっていないか、プレーヤーがそれを見つけたとしても、ルールインベディメントである。例えば、一部が食べかけであったり、切り分けられている果実や果実の一切れから作られたジュースインベディメントである。しかし、プレーヤーが果実を持ち帰っている場合は、その果実はそのプレーヤーの用具となる。</p> <p>ルールインベディメント/2 - ルールインベディメントが障害物となる場合 ルールインベディメントは、建設や製造の過程を通じて、障害物に変わることがある。例えば、分類され、足が取り付けられた丸木(ルールインベディメント)は組み立てることでベンチ(障害物)に変わったことになる。</p> <p>ルールインベディメント/3 - 睡のステータス 睡は、プレーヤーの選択で一時的な水かルールインベディメントのどちらかとして取り扱うことができる。</p> <p>ルールインベディメント/4 - 道路の舗装に使われているルールインベディメント 砂利はルールインベディメントであり、プレーヤーは規則15.1aに基づいてルールインベディメントを取り除くことができる。その権利は、道路が砂利で覆われている場合、その道路は人工的に舗装された道路となり、その道路を動かさない障害物にするという事実によって影響されない。同じ原則が、砕いた瓦、ワッドチップなどで作られた道路にも適用される。</p> <p>そうした状況では、プレーヤーは次のことができる: ● その障害物に人工的な材料(例えば、砂利)を敷き、その道路から砂利(ルールインベディメント)を取り除く(規則15.1a)。 ● その異常なコース状態(動かさない障害物)からの罰なしの救済を受ける(規則16.1b)。</p> <p>プレーヤーは罰なしの救済を受けるためにその道路からいくつかの砂利を取り除くこともできる。</p> | <p>ルールインベディメント/5 - 生きている虫は球に貼り付くことはない 死んでいる虫は球に貼り付いているとみなされる場合があるが、生きている虫は、動いているか動いていないにかかわらず、球に貼り付いているとみなされることはない。したがって、球の上にいる、生きている虫はルールインベディメントである。</p> <p>レフェリー 事実問題を決定し、規則の適用するために委員会が指したオフィシャル。委員会の措置、セクション6C(レフェリーの責任と権限の説明事項)。</p> <p>分かっている、または事実上確定 プレーヤーの球に起きたことを決定するための基準(例えば、球がペナルティエリアの中央に止まったかどうか、球が動いたかどうか、何が球を動かす原因となったか)。</p> <p>分かっている、または事実上確定 球に可能性がある、または起こりそうであること以上のことで、次のいずれかを示している: ● 問題になっている出来事がプレーヤーの球に起きたという決定的な証拠がある(例えば、プレーヤー、または他の目撃者がそれが起きたのを見ていた場合)、または、 ● 疑念はほんのわずかにあるものの、合理的に入手可能なすべての情報から、問題になっている出来事の可能性が95%以上であることを示している。</p> <p>「合理的に入手可能なすべての情報」にはプレーヤーが分かっている情報と、プレーヤーが合理的な努力で、かつプレーヤーを不当に罰することなく得られる他のすべての情報を含む。</p> <p>分かっている、または事実上確定/1 - 球が動いた場合の「分かっている、または事実上確定」基準の適用 何が球を動かす原因となったのか「分かっている」のであれば、合理的に得られるすべての情報を考慮しなければならず、その証拠をプレーヤー、相手あるいは他の目撃者がその球を動かす原因となったことが「事実上確定」であるかどうかを決定するために評価しなければならない。</p> |

↑ 70を超えるローカルルールの参考例が収録されています。

JGAホームページで販売しております。

JGA 規則書

検索

<http://www.jga.or.jp/jga/html/rules/books.html>



JAPAN GOLF ASSOCIATION

競技の終了時点についても明記しておかなければなりません。競技の終了時点というのは規則上の重要な時限となります。基本的には競技が終了した後に規則違反が発覚しても遡って成績を修正することはできないからです。委員会が正式に成績を告示したとき、委員長が表彰式で成績を発表したとき、倶楽部のホームページに成績が掲載されたとき、など各競技の競技終了時点を明記しておきましょう。ちなみに日本オープンでは優勝者に優勝杯が授与されたときに競技が終了します。

2 マーキング方法も紛議の原因に

競技の条件の他に紛議の原因となるのがマーキングです。アウトオブバウンズ、ペナルティーエリア、修理地などが規則に基づいた方法で正確に定められていないと紛議が起きてしまいます。杭や線が明確でないということだけでなく、救済を受けられるスペースが確保できるようにマーキングされているのか、球が止まる場所が考慮されているのか、ドロップゾーンがフェアな場所にあるかなど、気を付けなければいけないことがたくさんあります。新規則では水域以外の区域をペナルティーエリアにする場合のマーキング方法についての質問が増えています。コースマーキングの方法についてはオフィシャルガイド5Bに掲載されています。



3 ローカルルール制定は慎重に

そして、ローカルルールに関する紛議も多くあります。規則で認められていないローカルルールが制定されている、あるいはローカルルールの文言が不明確であったり、誤解を与える内容であったり、ローカルルールの内容に不備があれば紛議は避けられないでしょう。ローカルルールというのはその倶楽部のプレーヤー達が納得し

ているのであればどのようなルールを作っても良いというものではありません。ローカルルールを制定する場合は、規則でその制定が認められているローカルルールを採用する必要があります。ゴルフ規則のオフィシャルガイドにはその参考例が約70掲載されています。規則で認められないローカルルールを採用した結果、紛議が起きた場合、もはや規則に基づいて裁定することはできなくなってしまうことを委員会は理解しておくべきです。

4 公式ガイドでスマート&フェアなプレイを

規則に基づく競技の運営に努めてもレフェリーが誤った裁定をしてしまうこともあります。レフェリーも人間ですからこの複雑なゲームの規則を100%正しく裁定できるとは限りません。レフェリーが誤った裁定をした場合、どのように対処し、どのようにプレーヤーに説明するかについても委員会の重要な責務です。初期対応を誤れば紛議を不要に悪化されるかもしれません。オフィシャルガイドのセクション6Cではレフェリーの役割、裁定に関するガイダンスが豊富に掲載されています。

JGAが発行しているゴルフ規則のオフィシャルガイドにはプレーの規則の全文と、各規則の解釈が規定されているだけでなく、委員会が競技を運営するための詳細な説明が掲載されています。上記に一部をご紹介いたしましたが、どのように競技の条件を制定するのか、どのようにマーキングをするのか、そしてローカルルールの参考例が掲載されています。競技を運営する委員会、競技運営を担当するスタッフは是非このオフィシャルガイドを活用していただきたいと思えます。競技を運営する方法は規則改訂のタイミングだけでなく、日進月歩で変化しています。オフィシャルガイドでは最新の規則に基づく最新の運営方法のガイダンスを示しています。

正確な競技の条件が告知されていて、規則に基づいて正確にマーキングされたコースで、正しいローカルルールのもとで、フェアな倶楽部競技を運営することは倶楽部競技だけでなく、倶楽部そのものの価値を上げることにつながると思います。